

今を未来に



学ぶことが楽しい学校 だいすき・つながる・じっくり・やってみる・すこやか・まなぶ



「NRT」「みえスタディチェック」「全国学力・学習状況調査」の結果から

1学期に、全国学力・学習状況調査（6年生）・標準学力検査NRT（2～5年生）・みえスタディチェック（4・5年生）を行いました。この検査は、4月に行い、前年度の学年（例：2年生であれば1年生の時）の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。

以下に、今年度の2年生から6年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせします。

みえスタディチェック、NRTについての個人票は1学期懇談会にてお渡ししました。全国学力・学習状況調査につきましては、2学期にお子様に返却いたします。個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

分析結果を公表するにあたり、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を確認しました。そして、家庭学習に関わることは、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。ぜひご一読ください。

【調査・検査の結果からの学校全体の状況】

本校の強み・・・どの問題にもあきらめずに取り組む姿勢がある

どの学年、どの教科においても、無回答率が全国または県等の平均などよりも低いことから、どの学習にもあきらめずに「やってみよう」という気持ちで取り組むことができています。

国語の「話す聞く」は、本校では高学年になるにつれて到達度が高くなる傾向があり、聞き合い、話し合いの活動を重視した学習活動の積み重ねの成果であると考えています。

本校の弱み・・・国語「書くこと」算数「数と計算」

「書くこと」は全国的に平均正答率が低く、全国的な課題となっていると言えます。本校においても同様に正答率が低く、あらゆる学習活動で力を入れている領域です。

算数では、着目したいのが「数と計算」です。四則計算の定着や、場に応じて適切な方法で処理を行うことに課題があると言えます。

算数において、2年間のNRT検査の結果から本校でつまづきやすい単元を下に示します。

全体として四則計算(たし算・引き算・かけ算・わり算)の定着

1年 絵や図を用いた数量の表現

2年 時間の単位

3年 分数、□を用いた式、長さ、重さ

4年 角の大きさ、割合、分数の理解

指導の工夫・改善


- ①日常の場面を想定させた学習活動の展開
- ②選択型・短答型を様々な学習活動で積み重ね、記述型で答えられる力を養う
- ③四則計算の定着
- ④作文指導・読みあう活動
- ⑤ICTの活用 「ミライシード」等を活用した反復学習、CBTシステムの活用

CBT:Computer Based Testing の略称。コンピュータを使った試験方式のこと。

右に示した問題は、全国学力学習状況調査の算数の問題で全国的に正答率が低かったものです。求められている「割合」についての理解、日常の場面と学習活動の結びつきの薄さが考えられます。こ

②【変化と関係】二つの数量の関係について考察すること（大問2 果汁の割合）

(3)数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解しているかを問う問題
・果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。



1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。… 67.7%
2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。… 9.2%
3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

〈誤答例の分析と課題〉
「1」と解答した児童は、果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、同様に果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると誤って捉えていると考えられる。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、

このことから、用語の理解などを自分の言葉で言語化するとともに、日々の学習活動で日常の場面に対応させて考えさせる活動を取り入れ、理解をさらに深めていきたいと考えます。

また、記述型を学習活動に取り入れ、子どもたちが自分の考えを整理する力や、伝える力をつけられるよう、学習活動を工夫します。

四則計算については、朝学習の時間や家庭学習での積み重ねはもちろん、場面に応じて適切に使うことができるように指導をしていくことが大切であると考えます。

本校では今、「書くこと」に重点を置いています。子どもたちが日常で感じたことを作文にしたり読み合ったりする活動を通して、自分の思いや考えを書き深める力をつけていきたいと思えます。また、視点や条件を踏まえて記述する活動も授業に取り入れていきます。

児童に一人一台タブレットが導入されて3年になります。授業でのICT機器の活用をはじめ、ミライシードでの反復学習や自分でつまずきを見つけて解決する学習ができるように支援をしていきます。三重県が導入しているCBTシステムについても学校で研修を行い、効果的な活用方法を考えていきます。

以上のことを教職員で共有し、学校全体で指導の工夫改善を進めていきます。

【6年生 全国学力・学習状況調査の結果考察より】

1. 国語・算数・理科の全国平均との比較にかかわって

国語・算数・理科の3教科ともに、全国平均もしくは少し上回る結果となりました。教科ごとに内容や領域、問題別に分析していくと、以下のような強みや弱みも見えてきました。

2. 「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 ◎漢字を文の中で正しく使う、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと
○「話すこと・聞くこと」 どのように話すかを書き、内容を正しくとらえる
- 算数 ○「データの活用」で、円グラフから、必要な数量を選び、読み取る
○示されたプログラムの中から正しいものを選択する
- 理科 ○各領域ともに、まんべんなく理解できていました
- (弱み) 国語 △「読むこと」 文章を読み、表現の効果を考え選択する
- 算数 △「変化と関係」数量が変わっても割合は変わらないことをもとに正しく選択する
△ 1050×4 正しく計算をすること
- 理科 △光は直進するという知識を活用して、正しい実験結果を選択する

3. 指導の工夫・改善にかかわって

今回の調査結果から概ね、基礎・基本の学習も定着しており、「書くこと」についてもできているという結果となりました。しかし、授業の様子も含め、どの教科においても、「話すこと」について課題があります。自分がどのように考えたのか、なぜそのように考えたのかということ全体に対して話すということに、抵抗を感じている子が多いように感じます。そこには、自信のなさということがあると考えます。全体でみんなが考えを話すことで、自信にもつながり、基礎基本の理解のさらなる向上にもつながります。そのため、授業の中で一人ひとりが話すことができる時間の確保を行うとともに、話してよかったという自信につながるよう指導をしていきます。

「書くこと」についても、いずれの教科においても「苦手意識」がある子が多いと捉えています。そのため、普段の授業においても、書く機会を多く設定するとともに、条件を提示したりキーワードを使ったりして、文を論理的に書くことができる力をつけていきます。算数ではノートに式だけを書くのではなく、解を導いた手順や考え方を文で表す活動をさらに積極的に取り入れていきます。

今回の調査を通して、自分の学習について振り返る機会を設け、自分の考えを書くことやなぜそう考えたのかということ話すことを続けていくことで学力のさらなる定着につなげていきます。今後の自分の進路を考えていく上での自信を培うということからも、みんながみんなが考え話す授業と指導を行っていきます。

4. 児童質問紙から見られる特徴について

(子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること)

- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答する児童の割合が低い。
⇒自分のよさに気づき、今後の自分の将来を考える機会を設けていきます。
自分が社会の役に立つことができると感じられる取り組みを行っていくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていきます。
- ・学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりに勉強する時間や読書にかけ時間が1時間以上と回答している児童が多い。
⇒6年生として設定した目標時間以上に自主的に学習をしている子が多いようです。
今後は、家庭学習の振り返りとも関連させ、宿題の内容や量の見直し、自主学習の内容について、学習の理解力につなげることができるよう働きかけを継続して行っていく予定です。

5. 家庭学習にかかわって

1学期同様、漢字ドリル、計算ドリルに加え、算数プリントを宿題として出していきます。その日の授業の復習や今までに習った学習の振り返りなどが主な内容になっています。その時の学年、その時の単元として学んでいるときには、分かっていたのだけれど…という声が聞かれます。漢字についても、同様にその学年のときには覚えていたのだけれど、いざ復習をすると書くことができないということもありました。そのため、何度も復習し定着を図る必要があると考えます。中学生に向けて、自分で課題を見つけ取り組む力をつけるためにも自主学習の課題も出していこうと考えています。

また、家庭学習振り返り週間の結果からインターネット、スマートフォンの利用において課題が見られます。インターネットやスマートフォンが普及する今、ゲームやスマートフォンに依存していないか、ルールが守られているか、学習時間が確保されているか、自分で見直せるような働きかけを継続していきます。ご家庭でお子様がどのように取り組んでいるのかを見て、アドバイスしていただくと、お子様の学習状況をつかんだり、課題となる部分が見えやすくなったりするかもしれません。見えてきたこと、思われたことについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

【5年生 NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

国語・算数ともに平均を下回る結果となりました。特に国語に課題があります。領域等においては、国語では「漢字の読み・書き」「主題や構成を読み取る」、算数では「分数」「わり算」「割合」に課題が見られました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 ○「話すこと・聞くこと」無回答率が平均より低く粘り強く取り組むことができる。
算数 ○「図形」「数と計算」(特に、「計算」「整数の表し方、がい数と四捨五入」、「かっこを用いた式、四則の性質」)
- (弱み) 国語 △「書くこと」
△「読むこと」 特に「主題や構成を読み取る」

算数 △「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」特に、「割合」が課題となる。
「わり算」「小数のしくみとその計算」「分数」も弱みとなっている。

*みえスタディチェックの問題形式毎の正答数を相対的に見ていくと「選択式」が平均に近い正答数であるのに対し、「短答式」「記述式」の正答数が少なく、記述力に弱みがある。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

全体的に基礎・基本的な学力の定着が必要であるという結果でした。

国語では「書くこと」に重点を置いて指導をしていきます。「話すこと」については概ねできています。その一方で「書くこと」に苦手意識があったり、構成を考えて文章を書く力に課題が見られたりします。筋道立てて書くために、書く内容をメモして整理してから書くことや、主語や述語、接続語などの文法を正しく使って書くなど、書くために必要な力を繰り返し指導していきます。また、短い文章を書くことを授業内で取り入れ、その文章を聞き合ったり、読み合ったりすることを通して、伝えたいことを相手に正確に伝えられるようにしていきたいと思います。その中で、語彙力を増やしたり、言葉の使い方を知ったり、文章構成を互いに学び合ったりできるようにしていきます。

算数では、「図形」「割合」などイメージしにくいものに苦手さが見られます。5年生では、さらに図形の学習が進み様々な形の角を調べたり、図形の面積を求めたり、立体的な図形を調べたりする学習があります。その際に、既習の内容についても関連させて定着できるように指導していきます。図形の学習では、教科書を見たり、問題を解いたりするだけではイメージを持ちづらい子が多いため、具体物を操作したり、タブレットを活用して視覚的にイメージしたりしながら授業を進めていきます。「割合」については、買い物など実生活に応じた課題設定の工夫をして意欲的に取り組めるようにしていきます。

また、算数では、引き続き習熟度別による少人数学習に取り組んでいきます。単元の始まりごとにレディネステストを実施し、子どもたちが自分に合った学習スピードのコースを選べるようにしています。少人数だからこそ、「わからない」と相談しやすく、わからないことを放っておかない環境を大切にしていきます。

4. 家庭学習にかかわって

学習した内容の定着を図るため既習事項を「宿題」として毎日出しています。音読、漢字、算数に加えて自主学習を出しています。多くの子が出された宿題に取り組むことができていると提出もできています。自主学習については、取り組み状況は様々です。自主学習では、自分に必要な学習を見つけて取り組むことで苦手を克服したり、得意を伸ばしたりすることができたり、自分に合った学習方法を見つけたりすることができます。与えられた分量をこなすだけでなく、自分がどうしたらより力がつくのかを考えて取り組むことでさらに学習成果を上げることができると考えます。学級内でも自主学習を交流しながら、自分に合った学習方法を見つけてほしいと思います。

学習環境も大切です。机の上に unnecessary なものが出ていませんか。学習する姿勢は整っていますか。ガラガラと取り組み、学習時間だけが長くなってしまっていないですか。学校でも話しているところですが、どうしても宿題を乱雑に取り組む姿があります。学習内容、学習環境、学習時間が良くなると、より確かな学力の定着につながりますので、ぜひご家庭でもご確認をよろしくお願いします。

【4年生 NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

1. 国語・算数の全国・県平均との比較にかかわって

国語・算数ともに平均を下回る結果となりました。

領域別でみると、国語では「書くこと」、算数では「数と計算」において課題が見られました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語 ○「話すこと・聞くこと」 特に話の中心を捉えて聞くことができます。

算数 ○「図形」

○みえスタディチェックではどの領域も無回答率が低く、粘り強く取り組んでいる。

(弱み) 国語 △「書くこと」特に、報告文のまとめを書く記述問題の正答率が低く、半数程度の子どもたちが無回答となりました。

△みえスタディチェックの問題形式別正答数を見ると、「選択式」「短答式」「記述式」の中でも「記述式」の正答数が少なく、スキルアップが必要です。

算数 △「数と計算」

特に「たし算とひき算」「分数」「□を用いた式」「2ケタの整数のかけ算」

3. 指導の工夫・改善にかかわって

基礎学力の定着に向けた取り組みが必要です。家庭学習や朝学習の時間につまずきとなっている学年の学習に戻り、繰り返し取り組み習熟を図ります。

国語の課題である「書くこと」は、学年当初より書く機会を増やすようにしてきています。初めは書くことにしんどさのあった子どもも少しずつ書けるようになってきています。継続することで書く力を伸ばしていきます。また、感染症対策に気をつけながら、話す活動で自分の考えを表現してから書くなど、強みを活かして学習を進めていきます。

算数は、「数と計算」の練習問題などの反復練習に取り組むとともに、どこで間違えているのかを気づける指導をしていきます。また、3つのグループに分かれ少人数での学習を進めています。少人数だからこそ分からないことを「分からない」と言いやすくなっています。「分からないこと」から学びを広げていきたいと思えます。問題文の読み取りの段階でのつまずきも見られます。問題文を図で表したり、必要な言葉や数を探したりする学習や、自分の考えを図や具体物を使って説明する学習に取り組むことでそれぞれに必要な力をつけていきます。

4. 家庭学習にかかわって

自主的に学習に取り組む子が増えてきています。その一方で家庭学習を雑に取り組む子どもも目立ってきました。家庭学習での見直しや答え合わせを大切にしていない子は学力検査や単元テストでもうっかりミスをしてしまっています。反対に、家庭学習で自ら教科書を活用して取り組んだり、漢字ドリルだけではなく辞書を用いて学習を進めたりしている子はより高い学習内容の定着が見られます。見直しや答え合わせだけではなく、毎日の学習をていねいに取り組むことで確かな学力につながっていきます。

宿題では主に漢字ドリル、計算ドリルを用いて反復学習を行います。音読には語彙力や読解力の向上につながるといった効果があります。いつも音読を聞いてくださってありがとうございます。家庭学習も学校と家庭が連携しながら進めていきたいと思えます。まずは学習環境を整えることから始めていきたいですね。「塵も積もれば山となる」4年生で習ったことわざの通り毎日の学習をていねいに取り組み、学力の定着を図っていききたいと思えます。

【3年生 NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語の正答率は、「書くこと」「読むこと」は、全国平均と同等の結果となり、「話すこと・聞くこと」がやや全国平均を下回りました。算数の正答率は、「図形」が全国平均と同等の結果、「数と計算」、「測量・データの活用」が、全国平均を下回る結果でした。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 ○「漢字の読み、主語述語の理解」
○「文章を読み感想などを伝えあう」
- 算数 ○「三角形やかさ」「数の構成と表し方」
○どの領域においても、「知識・技能」での理解が定着しています。
- (弱み) 国語 △「話すこと・聞くこと」・「相手の話に関心を持ち話し合う」ことに大きな課題があります。
△「話題に沿って質問をしたり自分の意見を考えたり提案する」問題の正答率が低く、無回答の割合が高い。
△「読むこと」・「話の内容の大体をとらえる」「重要な語や人物の行動をとらえる」などは正答率が低い。
- 算数 △「長さ、かさ」「時間の単位」「表やグラフ」については、大きな課題があります。
△四則計算についても定着にばらつきがあり、さらなる復習が必要です。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

どの学習でも、子どもたちが話題に沿って話を聴いたり、何を問われているかを捉えたりできるよう、ポイントになることを可視化しながら学習を進められるよう努めます。また既習の内容を学習活動や学校生活の中で取り上げるなど関連付けを強くしていきます。

国語で「相手の話に関心を持ち話し合う」ためには、自分の考えはどのようなものか、だれと同じなのか、立場をはっきりさせる必要があると考えます。国語をはじめ様々な活動の中での話し合いで、自分の立場をはっきりさせる機会を多く持っていきます。また、学習の様子でわからない言葉がある場面が多く見られたので、国語辞典を活用し語彙を増やすよう取り組みます。

また「書くこと」においては作文指導を積み重ね、様々な物事をとらえたり感じ取ったりしようとする気持ちを育てていきます。

算数では、四則計算や既習学習の定着を図るため、授業の始めにくり返し取り組んでいきます。授業では知識・技能を生かした問題解決の時間を設定し、ICTを活用しながら、子どもたちが「どのように考えたか」「なぜそうなるか」を説明する時間を確保していきます。

特に「時計の学習」「表やグラフ」については具体操作を行いながら実感の伴う学習を展開していきます。また朝学習でのミライシードやフラッシュカードなどタブレット活用しながら反復学習を進めていきます。

4. 家庭学習にかかわって

漢字・計算・音読の家庭学習のリズムは整ってきている子が多いです。しかし、個々の理解度から、全員が同じ内容の宿題でも、取り組み方に違いがあります。宿題でわからないところには印をつけて伝えるなど、わからないことをそのままにせずに取り組んでいけるようにしていきます。

また、宿題以外にも、さらに力を伸ばしたり、もう少し復習をしたり、自分で考えて学習をすることができるように、2学期以降は自主学習のやり方指導に力を入れ、自分のやりたい学習を自分から取り組める積極性も身につけさせていきたいと考えています。

3年生での家庭学習の時間の目安は40分です。その時間は集中して学習に取り組むことができるように、ゲームやテレビの時間を決めるなど、家庭での時間の使い方も考えていけるといいと思います。

【2年生 NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語と算数の正答率はともに全国平均と比べると、少し下回りました。国語では、特に「話すこと・聞くこと」が課題です。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語 ○「はへを、句読点、片仮名の書き」

○「漢字の読み、言葉のまとまり」

算数 ○「時刻の読み方」

(弱み) 国語 △「相手の話に関心を持ち話し合う」

△「書く事柄や順序を考える」「読み返してよいところを見つける」は大きな課題となっています。

算数 △「絵や図を用いた数量の表現」は特に課題があります。

△「数直線上の数」や「場面から加法・減法の立式」に課題があり、力をつけていく必要があります。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、「話すこと・聞くこと」に課題があります。

授業の中で発表する場面を多く取り入れ、伝えたいことを話すことに慣れる活動を行っていきます。また、発表する活動の中で発表している内容をしっかりと聞く取り組みをします。

「観察文のよいところ」や「説明文に合う図」について力をつけていく必要があるため、文章の読み取りを丁寧に行うとともに、文章表現のよいところを考えたり、絵や図を用いて相手にわかりやすく伝える活用能力を身につけられるようにしていきます。

今回、強みとなった「漢字や言葉」ですが、2年生に進級し、学習する漢字や言葉も増え、難しいと感じる子も多くいます。朝学習の時間や国語の時間を使って漢字や言葉の定着を図ります。

算数では、全体的に課題が見られ、基礎基本の定着が必要です。

「時刻の読み方」は強みとなっていますが、2年生の「午前」「午後」を用いた時刻の読み方や「時間」を求めることに課題となっています。そのため、全ての領域での底上げが必要となってきます。算数プリントや計算ドリルを用いて多くの問題を解き、反復練習から定着を図ります。

文章を読み取る力をつけるため、文章問題に多く取り組んだり、文章をもとに絵や図に表したりする活動をしていきます。

4. 家庭学習にかかわって

家庭学習振り返り週間の取り組みから、平日には家庭学習に時間をかけて取り組んでいる様子がわかってきました。一方で、休日になると生活習慣が乱れてしまったり、家庭学習の時間が少なくなってしまうなどの傾向があります。また、家庭で読書の時間を設けている子が少ないという課題も見られました。学校で出た宿題だけでなく、自主学習ノートを使った自主学習や読書の時間を増やして、書く時、話す時に使うことができる語彙を増やしていくなど、家庭学習を充実させていけるよう子どもに声掛けを行っていきます。